

下野新聞 リレーコラム掲載

宇都宮市内の大学リレーコラム「5色のレポート」が下野新聞で2020年度からスタートしました。このコラムは、各大学の特色や取り組み、学生の地元・栃木への思いなどが掲載されています。

ここでは、2021年度中に掲載された宇都宮共和大学シティライフ学部関係の3つの記事を紹介します。

地域と関わり「貢献」模索



5色のレポート
市内大学リレーコラム

私は、高校時代はインドア派の人間でした。しかし、「このままではいけない!」と考えて、まちづくり活動が活発な共和大シティライフ学部に進学しました。大学1年生の時に力を入れたのが「地域社会実習」という科目です。大

宇都宮共和大シティライフ学部

谷地区の草刈りや花火大会のスタッフ、善川イルミネーション制作などのボランティアを経験することができました。初めは少々戸惑いましたが、私が所属するゼミでは



ゼミ活動で大谷地区を訪れた吉岡さん（後列中央）

たが、少しずつ「他者や地域のためにできること」を考え、積極的に関われるようになりました。私が所属するゼミでは

建築石材の採掘で有名な大谷地区について、観光振興による地域活性化を目指し活動しています。大谷地区の豊かな自然に着目し、小動物や植物を新たな観光資源にできないかと模索しています。例えば、四季折々の生物の動画を撮って、動画投稿サイト「ユーチューブ」に配信することを計画しています。大谷地区において自然を観察し、生物の多様性と環境保護等について「持続可能な開発目標（SDGs）」の視点も情報発信していきたいと思っています。そして、自分だけではなく、他者を思いやる人間に成長し、地域社会に貢献できればと考えています。

（シティライフ学部3年 吉岡真一）

3年西山ゼミ

（下野新聞2021年6月13日18面掲載）

145



宇都宮共和大宇都宮
ティキャンパスでは、11
月にすみれ祭(大学祭)
を開催しました。高校で
は経験したことのない何
か大掛かりな活動を積極
的にしようと決めていた
私は、入学後すぐに実行
委員に名乗り出、副委

勇気の 一歩で達成感

員長と装飾部長を兼任
することにしました。実
行委員会展示、ス
テージ装飾、備品管理
に会計、広報等部門に
合わせて、水主物をコ



すみれ祭のポスターを手にする久保さん

「あなたが主役のすみ
れ祭(心はN.O.ソーシャ
ルライスタンス)」とい
うテーマのすみれ祭は、
好天にも恵まれ、大盛況
を取って達成感を味わ
うことができました。当初
は不安もありましたが、
周囲の協力を得て、無事
大学祭を盛り上げること
ができホッとしていま
す。勇気を出して踏み込
んだ一歩は素晴らしい体
験へとつながったと感じ
ています。
来年は自分が実行委員
長として、後輩と共に大
学祭を作り上げたいと思
っています。
(シティライフ学部1
年 久保太功磨)

すみれ祭副実行委員長 久保太功磨

(下野新聞 2021年12月12日 22面掲載)



私は、まちづくりを学
びながら教員免許の取得
を目指すため、山梨県の
高校から進学しました。
さまざまな分野の講義を
受講しつつ、仲間と楽し
く学生生活を送っていま
す。
現在、大学祭であるす
みれ祭(11月7日)の

実践通し課題解決学ぶ

宇都宮共和大シティライフ学部



市内のワーキングスペース見学で、施設管理者から設置の経緯や運営方法について聞く青山さん(左から2人目)らゼミ生たち

ています。その中で、コ
ミュニケーションの取り
方や、仕事の効率的な進
め方なども学ぶことが
できました。
また、観光学のゼミナ
ールで、旅先で働くワー
ケーションによる地域
活性化について研究し
ています。
テレワークのための環
境づくりや、観光を楽し
んでもらうための地域の
魅力の生かし方を考えて
います。そのために、市
内のワーキングスペー
スの視察などのファイ
ルドワークを行っています。
大学祭もゼミナール活
動も成果の発表時期が重
なりますが、ともに成功
できるように、力を注いで
いきたいと思っています。
(シティライフ学部2
年 青山翔)

2年渡邊ゼミ

(下野新聞 2021年9月19日 18面掲載)